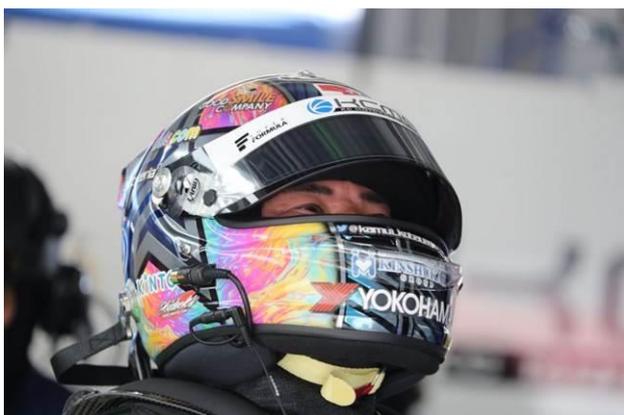


小林可夢偉は 17 位完走。国本雄資は 9 位でポイント獲得。

2022 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 5 戦レポート

開催日程	2022 年 6 月 18 日(土) / 19 日(日)	開催場所	スポーツランド SUGO (3,5865km)
大会名称	2022 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 5 戦 (53 周又は 70 分 / 参加台数 21 台)		
天候 / 気温	6 月 18 日(土) 晴れ / 28 度 19 日(日) 晴れ / 30 度		
観客動員数	6 月 18 日(土): 3,600 人 19 日(日): 5,100 人 計 8,700 人(主催者発表)		

全7大会10レースで争われる2022シーズンを折り返す第5戦が宮城県のスポーツランドSUGOで行われた。前戦から約1ヶ月、東北地方も15日(水)に梅雨入りが発表され、天候が懸念されていた。しかし、天気予報では2日間とも雨の心配はないが気温は高く、蒸し暑くなることが予想された。ここSUGOは、2019年に小林が2位表彰台を獲得、2020年は国本が5位入賞を果たすなど、両選手が得意とするサーキットである。マシンセッティングの方向性も見えてきているので、何としても2台揃って良い結果を残したい。



【予選】 天気： 晴れ / 気温： 28度 / 路面コンディション： ドライ

#7 小林可夢偉 Q1A組： 10位 / 1'05.839

#18 国本雄資 Q1B組： 2位 / 1'04.954 Q2： 8位 / 1'05.118

好天となった18日予選日。9時10分からのフリー走行開始時点で気温は25℃、路面温度は36℃というコンディション。小林、国本両選手はセッションが始まると早々にコースインし、予選に向けてセットアップを行い、小林は10番手(1'05.994)、国本は18番手(1'06.579)でフリー走行を終えた。

予選開始の14時には気温28℃、路面温度44℃まで上昇。Q1はA組(10台)、B組(11台)に分かれ、各10分間の走行で、それぞれ上位6台がQ2に進出する。今回は小林がA組、国本がB組での走行となった。

14時からA組の予選開始。しかし、開始直後にコース内に動物が侵入したため赤旗中断となった。セッション中断から5分後、仕切り直して再度10分間で争われることとなった。小林は計測2周目でアタックを開始。だが、フリー走行時とマシンのフィーリングが変わってしまい本来のアタックができず、10番手(1'05.839)で予選を終えた。

A組終了の5分後にB組開始。国本は渾身のアタックをみせ、1'04.954のトップタイムをマークしたが、その直後に#5 牧野選手にわずか0.034秒更新されてしまった。だが、手応え十分の2番手でQ1を終え、見事Q2進出を果たした。Q1で1分4秒台をマークしたのは牧野選手と国本の2人だけである。

14時40分、7分間のQ2が始まった。国本はポールポジション獲得のために10分間のインターバルでマシンセッティングの変更を行った。しかし、そのセット変更が思っていたフィーリングとは異なり、それにより若干ミスをしてしまった。その結果、1'05.118と4秒台をマークすることはできず、8番手でQ2を終えた。

明日の決勝スターティンググリッドは国本が8番グリッド、小林が20番グリッドからスタートとなった。



【決勝】

天気：晴れ / 気温：30度 / 路面コンディション：ドライ

#7 小林可夢偉 17位 / #18 国本雄資 9位

午前の段階で気温28℃、路面温度47℃、と前日より暑くなることが予想された19日決勝日。10時10分より30分間のフリー走行が始まり、小林、国本両選手は前日からセッティングを変えたマシンをチェックしながら周回を重ねた。参考タイムではあるが、小林は10番手(1'08.258)、国本は16番手(1'08.440)で走行を終えた。

午後には気温が30℃を超え、路面温度は43℃。スタート進行を前にグラウンドスタンドの先に厚く暗い雲が見え始め、各車がグリッドに並ぶ直前に大粒の雨が降り始めたがすぐに止み、ドライコンディションでのスタートとなった。小林、国本両選手は好スタートを決め、小林は#14 大嶋選手をかわし、国本も前を走る#3 山下選手をかわした。その直後、2コーナーで山下選手がスピンを喫し、コースオフ。これにより1周目からセーフティーカー導入となった。山下選手のマシン回収が終わると、8周目にレース再開。各車、最終コーナーから駆け上っていく。リスタート直後の1コーナー、今度は松下選手がクラッシュ。再びセーフティーカーが導入された。このセーフティーカーラン中に10周目を迎え、まずは国本がピットイン。順調にタイヤ交換を終え、コースに戻る。小林はステアアウトを選択し、そのまま逃げ切りを図る。15周目にレース再開。国本は前を走る#12 福住選手に猛プッシュするが、タイヤの摩耗が激しく、抜くには難しい状況となってしまった。一方、ステアアウトを選択した小林は、同様の作戦をとるマシンが多く、うまくギャップを築けないまま6番手を走行する。そして、46周目にピットイン。先にタイヤ交換を済ませたマシンの後方、17番手でコースに復帰した。国本はタイヤの摩耗が激しい状況で8番手を維持していたが、ステアアウト組の#20 平川選手が後方から急接近してくる。なんとか阻止を試みるも抑え切ることができず、順位を一つ落としてしまった。本来の周回数は53周だが、先に最大レース時間の70分に到達したことにより、49周でのチェッカーとなった。国本は9位でポイントを獲得し、小林は17位でレースを終えた。



【ドライバーコメント】

#7 小林可夢偉選手

特に何もなく、淡々と走り続ける結果となってしまいました。セーフティーカーが導入された時に国本選手が前を走っていて優先権があったので、自分はピットに入らずステイアウトを選択しましたが、同様のマシンが意外と多く、うまくギャップを築けなくて17位でした。車のスピードは悪くなかったけど、いざという時に合わせるできませんでした。次戦は富士スピードウェイで、前回の富士は良かったので、前回より良い結果を残せるように頑張ります。

#18 国本雄資選手

スタートはとても良く、ポジションを上げることができましたが、リスタートで福住選手に猛プッシュしているうちにタイヤが厳しくなり、さらにオーバーヒートもしてしまい、そこからのペースを落としてしまいました。展開的には苦しかったです。今回のレースでは最善を尽くしたと思います。チームはミスなく、しっかりと車の準備をしてくれました。9位ではありますがポイントを取れたのは良かったです。他に良いところもあったので、良いところをさらに強くして、次の富士では思いっきりレースができるように頑張ります。

【監督コメント】

松田次生監督

7号車は、フリー走行まではフィーリングがとても良かったのですが、予選は路面の変化にうまくアジャストすることができず、最下位に沈んでしまいました。決勝もセーフティーカーが導入されて、他の車が10周でピットインする中、7号車はピットに入らずクリーンエアで走るために頑張ってもらいましたがペースを上げることができず、レースペースにも課題が残る結果となりました。しっかりと車を見つめ直し、次戦の富士では、予選でも決勝でも強い車を作れるようにしたいと思います。

18号車は、土曜朝のフリー走行は私たちのミスもあり、十分に走る時間を与えることができなかったにも関わらず、予選Q1を2番手で通過してくれて、とても良い状態でした。しかし、Q2ではタイムを更新することができなかったのも、原因をしっかりと究明したいと思います。決勝に関しては10周目に入らざるをえない状況でしたが、福住選手をなかなか抜けなかったことによりタイヤがタレてしまい、さらに後半でタイヤ交換した平川選手にも抜かれてしまいました。それでもポイントをしっかり取ってくれたのは良かったです。次は大量にポイントを取れるように、予選・決勝で戦える車を作ってあげたいと思います。次戦は巻き返せるように頑張ります。